

感染症・予防接種レター (第101号)

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会では「感染症・予防接種」に関するレターを毎号の小児保健研究に掲載し、わかりやすい情報を会員にお伝えいたしたいと存じます。ご参考になれば幸いです。

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会

岡田 賢司 (委員長) 久保田恵巳 越田 理恵 城 青衣 庄司 健介
菅原 美絵 多屋 馨子 (副委員長) 並木由美江 三沢あき子 渡邊 久美

風疹の流行を起こさないために今すぐできること

多屋 馨子

風疹は発熱、発疹、リンパ節腫脹を主症状とする急性ウイルス感染症であるが、基本的には予後良好な疾患である。しかし、一部の患者では血小板減少性紫斑病や脳炎を合併して、重症化することがある。また、成人で風疹に罹患すると、関節痛を訴える頻度が5~30%と高いことが報告されている¹⁾。発疹出現1週間前から発疹が消失するまで周りへの感染力があるために、発症してからの対策では遅く、気づいた時にはすでに、周りにいる感受性者に感染を拡げてしまっている。特に周りに妊婦がいた場合の影響は大きい。妊娠20週頃までの妊婦が風疹ウイルスに感染すると胎児にも感染して、出生児が先天性風疹症候群を発症するリスクが高くなるが、特に妊娠1か月では50%以上の児に影響が出ると報告されている²⁾。日本で風疹が流行すると、男性は職場での感染が多く、女性は家庭（特に夫から）での感染が多かったことが報告されている³⁾。

2019年から予防接種法に基づく定期接種として始まった風疹第5期定期接種の接種率が伸び悩んでい

る⁴⁾。小児期に風疹の定期接種を受ける機会がなかった昭和37年4月2日~昭和54年4月1日生まれの男性（2023年度中に44~61歳になる男性）を対象に、2019年から2025年3月までの期間限定で、風疹第5期定期接種が実施されている⁵⁾が、接種対象は風疹抗体価が低かった（赤血球凝集抑制法（hemagglutination inhibition：HI法）で1：8以下相当）男性であることから、接種前に抗体検査が必要である。2019年~2023年5月までに風疹抗体検査を受けた男性は、第5期定期接種対象の男性15,374,162人（2019年4月1日現在の人口）の29.7%、風疹含有ワクチンを受けた男性は、対象男性人口の6.4%に留まっていることが報告された⁴⁾。

わが国では過去10年間に2012~2013年と2018~2019年の2回、成人男性を中心とした大規模な風疹の全国流行が発生した（図1⁴⁾）。この2回の全国流行でそれぞれ45人、6人の児が先天性風疹症候群と診断されている⁶⁾。新型コロナウイルス感染症（coronavirus

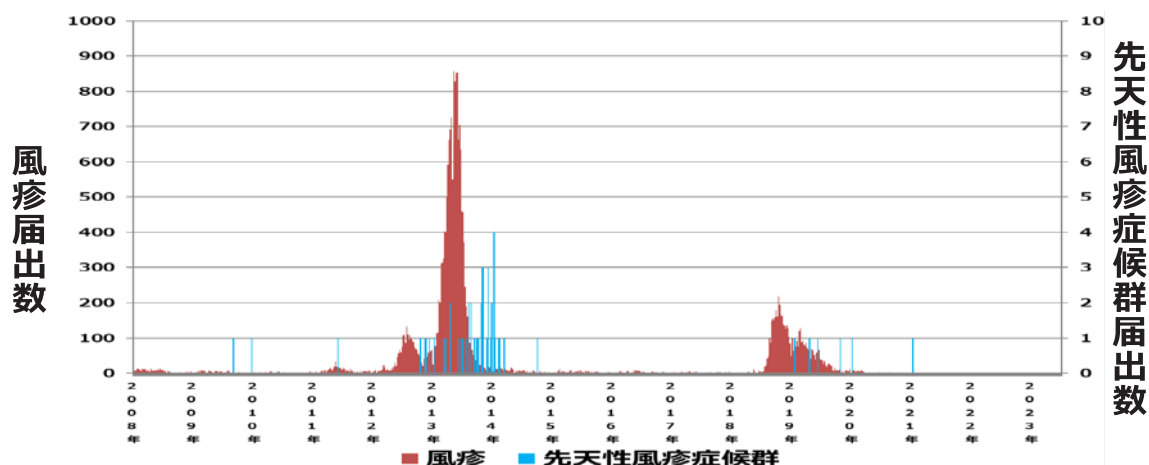
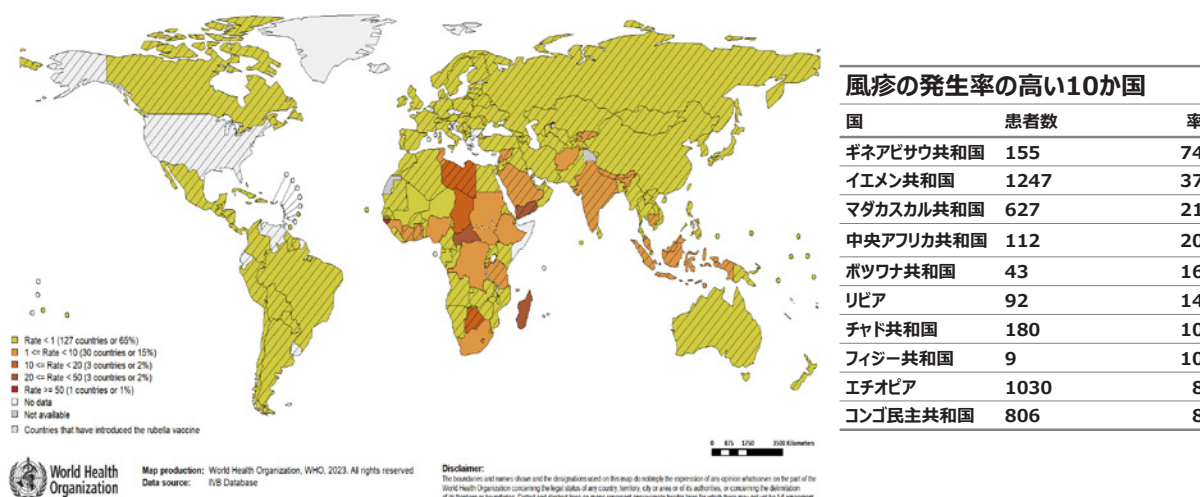


図1 週別風疹・先天性風疹症候群届出数（2008年第1週~2023年第31週：感染症発生動向調査より；文献4より一部改変）



注: 2023 年 8 月時点のデータに基づく - 2023 年 1 月～2023 年 6 月までのサーベイランスデータ -
発生率: 症例数 / 人口 * 1,000,000 - 人口データ: 世界推計人口、2019 年改訂版

図 2 人口 100 万人あたり風疹発生状況 (最近 12 か月): 文献 7 より引用一部翻訳

disease 2019 : COVID-19) の流行で, 国内外の人の移動が抑制され, 飛沫感染対策, 接触感染対策の強化もあって, 風疹の国内流行は現在, 発生していない⁴⁾が, 成人男性に蓄積した風疹の感受性者は第 5 期定期接種の接種率が上昇しないことには解消されることはなく, 海外から風疹ウイルスが持ち込まれると, 再び成人男性を中心とした全国流行が発生することが危惧される。

風疹の流行が抑制されている今こそ, 風疹対策を徹底したい。まず, 女性は, 妊娠する前に小児期を含めて風疹含有ワクチンを 2 回受けることである。1 回のみの接種では primary vaccine failure により免疫が獲得できていないこともあるため, 1 歳以上で 2 回の接種記録を確認しておくことが重要となる。記憶は全くあてにならない。また, 風疹は似た症状を呈する別の疾患 (溶血性連鎖球菌による発疹, 伝染性紅斑, 修飾麻疹, エンテロウイルス感染症, 伝染性単核球症, 薬疹など¹⁾) が多数あるため, 検査診断されていない場合は, 別の疾患を風疹と診断されていることがあることから, 抗体検査で確認しておくことが重要である。妊娠を予定または希望している女性は, 自治体が風疹抗体検査や風疹含有ワクチンの接種費用を助成していることが多いので, 住民票のある自治体に確認して欲しい。風疹含有ワクチンは生ワクチンであることから, 接種前 1 か月間と接種後 2 か月間は避妊が必要となるため, 妊娠を希望する女性は早めの対応が必要である。

次に, 第 5 期定期接種対象の男性は今すぐ風疹抗体

検査を受けて, 低抗体価であった場合は, すぐに風疹含有ワクチンの接種を受けておいて欲しい。この制度は期間限定であるため, 2023 年中に完了しておくことが望まれる。第 5 期風疹定期接種対象の男性に自治体から送付されるクーポン券で受けられるのは, 弱毒生麻しん風しん混合ワクチン (MR ワクチン) のみである。第 5 期定期接種対象年齢以外の男性であっても, 家族に妊婦や妊娠を予定または希望する女性がいる場合は, 自治体が風疹抗体検査と風疹含有ワクチンの接種費用を助成していることが多いので, 住民票のある自治体に今すぐ確認して欲しい。流行が始まってからでは間に合わないことが多い。

COVID-19 が 5 類感染症定点把握疾患に変更となり, 国内外の人の動きも COVID-19 流行前に戻りつつある。海外には風疹が流行している国はまだ多く存在し (図 2⁷⁾), 海外旅行中に風疹ウイルスに感染して帰国後風疹を発症する人が増える可能性がある。また, 海外から風疹ウイルスに感染後, 潜伏期間中に日本を訪問し, 日本で風疹を発症することも十分考えられる。その場合, 知らない間に周りに感染させ, 診断される前に帰国してしまうこともあり, 感染経路不明の風疹患者が発生する可能性がある。神奈川県では 2023 年第 31 週に 60 代男性が風疹 (検査診断例) を発症したことが届出⁸⁾されているが, 感染経路が不明である。

COVID-19 の流行で, 小児の第 1 期, 第 2 期定期接種の接種率も下がっている⁹⁾ことから, 風疹が流行すると, 小児の間でも風疹患者が増える可能性がある。小

児保健の関係者は、風疹定期接種対象者に関わる機会も多いことから、まずは職場で定期接種の徹底を啓発して欲しい。職場健診で風疹抗体検査を実施できれば、実施率も上がることが期待される。企業の協力も得ながら、二度と国内で風疹の流行が発生しないように、一人一人が自分のこととして風疹予防を考えて欲しい。

文 献

- 1) 国立感染症研究所感染症疫学センター：風疹とは. <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/430-rubella-intro.html> (参照 2023 年 8 月 14 日)
- 2) 国立感染症研究所ウイルス第 3 部加藤茂孝 (国立感染症研究所感染症疫学センターにより一部更新)：先天性風疹症候群とは. <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/429-crs-intro.html> (参照 2023 年 8 月 14 日)
- 3) 国立感染症研究所：職場における風しん対策ガイドライン 平成 26 年 3 月. <https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/rubella/kannrenn/syokubataisaku.pdf> (参照 2023 年 8 月 14 日)
- 4) 国立感染症研究所感染症疫学センター：風疹に関する疫学情報：2023 年 7 月 26 日現在. <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/rubella.html> (参照 2023 年 8 月 14 日)
- 5) 厚生労働省：風しんの追加的対策について. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index_00001.html (参照 2023 年 8 月 14 日)
- 6) 国立感染症研究所感染症疫学センター：先天性風しん症候群 (CRS) の報告 (2021 年 1 月 29 日現在) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/700-idsc/8588-rubella-crs.html> (参照 2023 年 8 月 14 日)
- 7) 世界保健機関 WHO：Global Measles and Rubella Monthly Update. <https://www.who.int/teams/immunization-vaccines-and-biologicals/immunization-analysis-and-insights/surveillance/monitoring/provisional-monthly-measles-and-rubella-data> (参照 2023 年 8 月 14 日)
- 8) 神奈川県感染症情報センター：神奈川県感染症発生情報 (31 週報). https://www.pref.kanagawa.jp/sys/eiken/003_center/0001_weekly/pdf/wrR05_31.pdf (参照 2023 年 8 月 14 日)
- 9) 国立感染症研究所感染症疫学センター：麻疹風しん定期予防接種実施状況の調査結果. <https://www.niid.go.jp/niid/ja/measles-vac.html> (参照 2023 年 8 月 14 日)